

ですから、「他人のフリ」を演じることで親子互いの甘えを排除しようと考えました。この(1)～(5)のマイナス面については、父の意見を聞いたことがあります。それによると

- (1) 長年親子の関係をやっているから仕方がない
- (2) 自分の経験が優先して、オマエの助言、アイデアを素直に聞けない
- (3) 身近な存在だから、理解しているだろうと、つい…
- (4) 思考パターンが似ているし、忙しくて知識を吸収する時間がない(つまり、仕事から帰ったら酒飲んでテレビ見る)
- (5) オマエに指示していると、作業能率が1/3になる

とのことで、典型的な職人さんの考え方です。反面、「オレと仕事をする前にお他人様の釜のメシを食って来い」と、良い事も言っていました。

さて、父がアルバイトの作業者を雇ったとき、また私が会社で上司に仕えていたときはどうでしょうか。前述のような言い訳などできない(言いにくい)はずです。

サラリーマンでありながら、休日にクリーニング店を手伝っている方もあろうかと思えます。また現在、お父様とともに店舗・工場を運営している若手の方々。親子の関係をちょっと考えてください。「親子だから当たり前」という考え方を仕事に持ち込んでいませんか?一人でもお他人様が入ったら、どう見られるでしょうか?仕事上では親子関係にケジメをつける。これが家族経営から組織的経営へ脱皮する第一歩なのです。

